

令和3年度 第1回周南市立図書館協議会 議事録

【日 時】 令和3年7月29日（木）10:00～11:45

【場 所】 周南市立中央図書館 3階集会室

【出席者】 《協議会委員・出席11名》

福井 雅子 委員	安部 要治 委員	原田 茂 委員
川野 玲子 委員	松永 恵子 委員	山城 佳子 委員
平岡 正夫 委員	三芳 慈 委員	豊田 順子 委員
河村 昌子 委員	松田 邦夫 委員	

※ 河村委員はオンラインで出席

《事務局12名》

【傍聴者】 0名

【議 事】

1. 開会（10:00）

2. 委嘱状交付

3. 教育長あいさつ

4. 自己紹介

(1)委員自己紹介

(2)事務局自己紹介

5. 協議会成立宣言

委員11名全員の出席により、会議の成立を宣言

6. 周南市立図書館協議会委員長、副委員長の互選について

委員長・原田委員、副委員長・豊田委員をそれぞれ選出、承認

委員長、副委員長のあいさつ

7. 議題

(1) 令和2年度各図書館事業報告について

「令和2年度 周南市立図書館年報」に基づく事業報告及び「新型コロナウイルス感染症対策」について事務局から説明

- ・利用者数、館外貸出冊数及び予約リクエスト資料数の推移
- ・新型コロナウイルス感染症対策にともなう休館中の貸出サービス、開館後の感染防止対策
- ・やまびこ号ジュニア寄贈報告
- ・行事の概況報告

(質疑等) なし

(2) 令和3年度周南市立図書館基本方針及び各館行事計画等について

「令和3年度周南市の教育事業概要(抜粋)」及び「令和3年度行事計画概要」を基に事務局が説明

- ・教育大綱に基づく対象施設と重点事業及び図書館費について
- ・令和3年度行事計画概要について

(質疑等)

委員：中央図書館の新規事業でお聞きしたい。コロナ対策で新規で予算化された電子図書館サービスについて、国の対策費があることが前提だと思うが、電子書籍を希望される年齢層はどうか？ これから必要として伸びていくのか、またこれを充実させるには単年度なのか、それとも何年か継続させていくのか、詳しく説明していただきたい。

事務局：電子図書館サービスについては、今年度にシステムの構築、そして初期になるのでコンテンツの充実をさせていく。先ほども申し上げたとおり、令和元年に読書バリアフリー法が制定され、視覚障害者等に対する図書館サービスの方にも重点を置くという方策が出ており、そちらの方にも対応できる形で現在システムの方を考えている。今後、資料については、入れ替わりもあるので、来年度も引き続きコンテンツについての予算の要望はしていく。年度が変わっても、電子資料は充実させていく。ただ、問題として図書館向けのコンテンツが権利の問題で少ないが、これから徐々に充実していくのではないかとということで、初年度ほど大量にというわけにはいかないが、

少しづつでも継続的に充実できるよう考えていきたいと思っている。

委員長：時間があるので、個人的にあちこちの図書館を見せてもらって、その時のことを話してみたいと思う。駅前図書館は3階のホールを使わせてもらい弦楽五重奏というのを初めてやらせてもらった。大変好評だった。準備もしやすく、皆さんも便利な場所で満足して帰られた。ただ几帳面すぎると思ったのは、ここにポスターが貼りたいとかの要望が難しいところもあったが、それはそれでいいのかとも思った。ああいう場所にあることで困っていることがあるのなら、教えていただきたい。それから、先日高水小に行くことがあり時間が余ったので、図書館に行くつもりはなかったが、場所を見に行き、ここが図書館かという感じで中に入れてもらったが、非常に入りやすく出やすかったが、盗難とか本がなくなるとかそういうことでお困りのことはないのか、教えていただきたい。各地に色んな図書館があって全体としたら素晴らしい効果が出ると思うが、まだまだ皆さんの力を合わせてPRをするとか、私も熊毛の図書館を知らずに行ってびっくりしたところである。

事務局：館内のポスターの設置については、全くできないというわけではなく、場所にもよるところであるが、他にデジタルサイネージを設置しており、情報発信が多岐にわたって皆様に見ていただけるような仕組みにさせていただいている。それについては、データの作成料がかかってしまうが、我々の主催のイベントや相談によってはこちらで製作をさせていただきながら、皆さんに周知ができるような仕組みにさせていただきたいと思っている。あとは館内のスターボックスの1階から階段を上っていただくと、巨大なブックアートというような非常に人気をいただいている唯一館内で写真を撮ることができる場所を設置している。そういったデザインの兼ね合いもあるので、情報の発信の場というところでデジタルサイネージを採用させていただいている。

事務局：熊毛図書館について、入りやすい出やすいということであるが、カウンターのところから死角になるところは当然ある。毎年蔵書点検があるが、不明本・見当たらない本はほとんどない。館内で不自然な動きをされる方を見かけた場合は見守りを職員が協力して行っている。気持ちよく利用していただけるよう、現在は涼みの駅としてご利用いただいている。

委員：私は光市に住んでいるので、利用する図書館も光市の図書館であるが、この資料

を見ると、18時から17時に閉館するというので、ウィークデイに図書館を利用することが不可能というか時間的に難しいという現状がある。基本的には土曜日か日曜日に通っている。図書館はそういうものかと思っていたが、単身赴任で萩市に行ったときに21時まで開いているということで、多分19時くらいからシルバーさんが入られているのかと思うが、時間帯がこういうふうに限られると、利用される方、働いている方はウィークデイに行くことはほとんど不可能ではないかと思っている。その辺が改善できたら利用者も増えるのではと疑問でもあるし、やればできるのかなと萩市にいる時思ったので、その辺りはどうなのかと思っている。

事務局：開館時間の延長については、以前からお話をいただいている。管理面の問題があり、実現していないのが現状である。現在、徳山駅前図書館が無休で9時30分から22時まで開館しているので、そちらをご利用いただけたらというのが、まず一つ。それから他館も同様に管理上の問題があるので、今のところ延長する予定はないが、そういう声が多くなった場合は考慮していかなければいけないと考えている。

(3) 第三次周南市子供読書活動推進計画進捗状況報告書（令和2年度）について
「第三次周南市子供読書活動推進計画進捗状況報告書（令和2年度）」を基に事務局が説明

（質疑等）なし

(4) 意見交換

委員長：今のオリンピックを見ていると、従来とは違った若い方の13歳で金メダルが出たりする時代になっているので、今、子供の成長が早くなっているのか、その辺を今日は聞いてみたいと思っている。

委員：子供の成長が、というか私たちが小さかった頃と比べて情報量がものすごく多い。その情報を収集する手立てもとてもたくさんある。家の経済状況にかかわらず、例えば学校でも一人1台タブレット端末を使うことができるので、色んなことを吸収することができる子供たち。それから13歳の金メダルの子もそうだが、新しいことにチャレンジするというのが昔の子供たち、私たちが小さかった頃石橋を叩いて叩い

て最後は渡らないという子供たちに比べたら、本当に今の子供たちは一生懸命前に向かって進んでいるという点では、成長が早いのではないかと感じている。

委員：ネットとかでみると、やはり家庭環境が素晴らしいなと思っている。ご両親が子供のために環境づくりをしていらっしゃる。子供が障害、壁にぶち当たった時に、親としてそこをサポートしている。やはり金メダリストになるだけの家庭環境があるなと感じた。小中学生になって家庭でやっておかないと、全部先生に投げるということでは、やはりいけないと思っている。スポーツにおいても、そのように強く感じている。

委員：以前に比べて受け答えもしっかりしてきているのではないかと思う。昨日サーフィンで銀メダルを取った人も、終わった後、膝まづいて海の神様に感謝しているというふうに出ていたので、少しずつだが子供たちの教育も良くなってきているのではないかと。一時期は若い人の態度が悪いとかあったが、今はそのように思う。

委員：個人的な意見かもしれないが、サーフィンやスケートボードがオリンピック競技になっていることが正直驚きである。これから色んな多様性が出てくることを我々が受け止めていくことが必要なのかなと思っている。中学生には「10年後、君たちが就職する頃は、7割は今にない職業に就くんだよ。」ということを書いて、その一番良い例はユーチューバーかなというところで、時代はどんどん変わって行ってそれを柔軟に受け止めていくということ、変わることに對して受け止めていく。受け止めた子供たちが色んな子供がいっぱいいることを私たちがそれを受け止めていくという時代が必要になってくるのかなと思うので、ああいうと言ったら失礼だが、出現というのはある意味画期的で、インタビューの受け答えなど、ものおじをしなない、言いたいことが言えるというのは素晴らしいなと思っている。

委員長：中学校くらいでは、いじめが非常に問題になっているが、これと今のことは反対である。いじめられる子供というのは偶然家庭の問題があるとかそういうことで片付くのか？ それかもっと強くなれないものかと私はいつも思う。

委員：これも個人的だが、すべては人権感覚かなと。いじめにしてもパワハラにしても、我々大人の社会でもそうだが、基本人から言われて嫌なことは言うな、人からされて嫌なことはするなとか、そういうことが徹底していけば、当然いじめもなくなるのではないかなと思うし、職員間のパワハラとかセクハラとかいうこともなくなるの

かなと。ごくごく当たり前と言われれば当たり前のことだが、その辺が徹底されれば解決していくのではないかと考えている。

委員長：結婚がなかなか早くできない、遅くなるというようなことを、これがチャンスというか、今これが変えられないのか？

委員：私は、3人の子供がおり、適齢期をちょっと過ぎた子もいるが、お陰様で3人とも結婚して家庭を築いている。結婚のチャンスというのは、今どきの若い方は、ネットとか出会い系アプリとかを通じて結構積極的にされている方も多いのではと思う。それと結婚に対して自信がない、臆病になっておられる方と両極端に分かれているような気がする。そういう考え方は、幼児期の心の育ち方というか、内面性を育てることが一番のような気がして、その内面性を育てるということは、読書がすごく大きな役割を果たしているように思う。子供の心は大人の心になっていくので、幼児期に良い本を読んで、本の中でたくさん体験をして、内面性を育てていけば、結婚に関して臆病になる方もいらっやらないし、いいのではないかとやはり読書のもつ力は素晴らしいと思っている。

委員：結婚に関しては、みんなが結婚すれば世の中がうまく行くのか？というのがあって、実は未婚の子供がいるが、それを家庭教育のやり方だと考えれば、私の失敗なのか？それを成功だとか失敗だとか私は言いたくない。自分で自立して生活しているので、それを応援したいと思っている。それから子供たちのことについては、昨年からのコロナ禍で、今の子供たちは素晴らしいと思っている。嫌なマスクをして、食べる時には前を向いて、おしゃべりをしないで食べる。そういうことを学校でもそうだろうが、児童クラブでもやっている。だから誰にもコロナがうつっていないという状況があったりして、本当に子供に救われている。私たち大人は、いつも子供たちに頭が下がる。マスクしていたら苦しいのに、本当によくやっている。コロナが本当に早く終わってほしい。私の活動の方も、子供たちのところに行ってお話しを提供する活動をメインとしていたので、昨年度はたった1回しかお話し会に行くことができなかった。27年間やってきて初めて経験をした。そこで起こったことは、メンバー12人のモチベーションを保つことが本当に難しかった。一年間1度も読み聞かせをしなかったら、やはり読み聞かせをするということですから、うまくできなくなる。

本も上手に選べない。マスクをして本を読むのは非常に苦しい。でもその中で、読み聞かせができるようになってきて、小学校とか地元の幼稚園とかに行かせてもらえるようになって、本当にみんなで喜んでいる。そして一年間誰も辞めないでメンバーがいてくれて良かったなと思っている。そういう中で、私は今活動している。

委員：今、オリンピックとかで若い方がたくさん出ておられるし、私たちの時代と比べて情報量のすごさというか、価値観が随分と違う。私たちの時代は、型にはまることが良いように私自身は捉えていた。今はその型にはめることが、どちらかと言えば、子供の成長を妨げているのではないかと思う。自分の思いとか、自分の得意なことをのびのびと家族が協力してさせているから、今若いメダリストもたくさん出ているのではないかと思う。結婚に関しては、今姉の孫が結婚しようかというところだが、私たちの結婚観と随分と違う。それが一番良いのだと思うが、男性も女性も自分を守りながら、お互いに結婚までもっていくというのが、熟慮して結婚まで至っているのだろうが、姉の孫を見ながら結婚観に関しても結婚後の生活感に関しても、随分私たちとは違って自由とかのびのびとしているので、それがこれからの社会を良い方向に作っていくのではないかなと思って感心して見ている。

委員：結婚に関しては、私は結婚するのが普通だと思っていない。結婚しない幸せもあるし、結婚する幸せもある。結婚したからと言って子供がいるのが幸せとは限らない。子供がいる幸せもある。子供がいない幸せもある。人それぞれの生活があるので、十人十色ではないが、人それぞれの幸せがあっているのではないかという考えでいる。私は3人子供がいるが、一番上だけ結婚をしていて、あと2人結婚していないが、結婚しなさいとは言わないし、一番上のところも結婚して2年経って、お付き合いをしてからは10年以上経っているが子供ができない。私は孫がどうかと言わないからと子供に言っていて、あなたたちの幸せを求めなさいと言っているくらいなので、若い人がどう思っているのかは分からないが、私は子供を育てる上で、十人十色で考える人がいるのだから、みんな同じように接しなさいと育ててきたので、皆さんとは考え方が違うかもしれない。

委員長：最後に図書館運営について、ご意見・ご要望がある人はお願いしたい。

委員：岐山小学校では、令和元年度から地域防災ふれあい学習会をやっている。子

供たちというのは守られる側になるが、災害があった時に子供たち自身が何ができるかを考えた。高学年の子が避難所に何を持っていくかという話をした時に、例えばゲームであるとかスマホであるとかが最初は出ていたが、色々条件をつけていって、電気が通っていないよとか充電は切れる、乾電池はないよと。その時に子供たちが最後の砦としてあげたのが、本だった。日本全国各地色々な災害がある。うちの学校もちろん体育館が避難所になるので、何かあった時に高学年の子供たちが、例えば就学前の小さい子供たちに対して、自分たちが読み聞かせをしてあげることができるという意見を出した。もちろんその時には、学校の図書館を開放して体育館とか色々な所にたくさん本を運ぼうねという話をした。すると子供たちが、学校の図書館には大人の人が読む本がないよという話をした。まだ具体的な行動としては上がっていないが、子供たちからは周南市にはたくさんの図書館があるんだから、何か災害があった時に図書館が臨時休館で閉まるのではなくて、何もない時に、お日様の光さえあれば一緒に楽しんだり、学んだりすることができる図書館というのを、もっと知ってもっと大事にしたいということ、子供たちも思っているんだということ、是非知っておいていただきたいと思う。

委員長：今日はオンラインで参加されている方もいるので、是非ご意見を聞いてみたい。

委員：初めて参加して、皆さんの意見を色々聞かせていただいて、私自身のことをお話しさせていただきたい。小さい頃、学校の図書館に行ったことがなかった。大きくなって市の図書館を利用するようになって、たくさんの知識をそこで教えてもらった。私が今一番思うのは、学校の司書の方の人数がどこかに載っていたが、すべての学校に司書の方がおられる訳ではないということで、これからの計画も全部の学校に司書の方がおられるところまでいっていないと思うので、是非是非、各学校の図書室に司書の方が一名おられる、そして、子供たちに本の楽しさとか色々な知識をもらえるということ、小さいうちから教えていただけるような環境に早くなるとういなと思う。

事務局：先程の話を補足説明として、学校図書館司書に関しては、管轄が学校教育課になるので、声があったことは伝えさせていただく。それから災害時の図書館について、コロナで休館した時に、学校も休みになり、図書館としてどういう役割を果た

すべきかという話をした。児童クラブへの配送を開始したが、これは学校が休みだから子供たちが児童クラブに来られるという前提で、そういう話になった。先程の災害時の話にもあったが、学校と図書館の連携は、当然必要になってくると思っている。子供読書推進計画という意味だけではなく、子供たちが読書に親しんでいただくことが必要であるし、極端な話をすればそういう時間が必要であるし、災害時などでも、その中で光を与えれば大袈裟かもしれないが、そういう動きも必要になってくるのではなかろうかと思っている。ただ、休館しないといけなくなった場合に、それだけではなく、違った考えとかアプローチができたらいいなということで、それについて再度考えていく必要があると思っている。

事務局：次回の協議会については、例年 2 回目の協議会は、他館の視察を行っているが、このようなご時世なので、まだはっきりとした方針が決まっていない。何らかの形で開催させていただきたいと思うので、日程調整等々願います。今回ご意見を多数いただいたが、普段から意見があれば遠慮なく私どもにお寄せいただき、よりよい図書館、利用しやすい図書館を目指して運営を進めてまいりたいと思うので、よろしく願います。

(5) 閉会 (11:45)